

オモイガケナマイマイ *Aegista inexpectata* Kuroda et Minato

## 【選定理由】

豊橋市の石巻山山頂付近石灰岩地の固有種であり、生息密度が低く、分布域も極度に狭い稀少種である。近年の異常気象に起因する夏季の高温により石灰岩地の乾燥化が進行しており、また、豪雨などによるリター層や土壌の流出なども陸産貝類全般の生息に大きな影響を及ぼし、本種も減少傾向にある。生息地が石巻山山頂部の局所分布であることから、絶滅の危険性のきわめて高い種と考えられる。世界的に見ても石巻山山頂部石灰岩地の固有種としてきわめて重要である。

## 【形態】

殻長 3.4~4.3 mm、殻径 11.1~12.0 mm 程度のごく低い円盤形の小型種である。殻は薄く、殻表は茶褐色のきわめて薄い殻皮で覆われ、鈍い光沢を有する。螺塔部は、ほぼ扁平である。殻皮には、同属他種の多くに見られる様な鱗片状の突出を生じない。成貝の殻口唇縁は、僅かに反曲する。周縁は鋭角張り、竜骨状(キール)となる。臍孔は殻径の1/3程度の幅で、浅いが広く明瞭に開く。軟体は淡黒褐色である。

## 【分布の概要】

## 【県内の分布】

石巻山山頂部のみ分布。タイプ産地は石巻山石灰岩地帯が指定されている(黒田・湊, 1977)。

## 【世界および国内の分布】

日本(石巻山)固有種。原記載では、愛知県豊橋市石巻山以外には、静岡県(天竜市二保)、東京都(奥多摩日原鍾乳洞付近)、埼玉県(横瀬村武甲山山麓)、群馬県(中里村叶山)にも分布する(黒田・湊, 1977)とされていたが、おそらく、いずれも本種とは別種になると考えられる。

## 【生息地の環境／生態的特性】

石巻山山頂部の石灰岩地に生息する。石灰岩露頭の岩の割れ目の隙間に生息する。降雨後の活動時の個体以外は、生貝の発見が困難である。食性については植物食で、分解の進んだ落葉堆積物などを食べて生活していると推測される。

## 【現在の生息状況／減少の要因】

徐々に生貝の確認個体数が減少しており、減少傾向が考えられる。近年の異常気象に起因する夏季の高温や豪雨などによるリター層や土壌の流出なども本種の生息に大きな影響を及ぼしていると考えられる。石巻山は、本種のほかにも数種の陸産貝類の固有種が存在するため、貝類コレクターの採集圧も無視できないと考えられる。生息場所はきわめて狭く局所的であり、環境が悪化すれば直ちに本種の消滅につながる。

## 【保全上の留意点】

生息地の石巻山は、石巻山多米県立自然公園に位置しているほか、山頂付近の「石巻山石灰岩地植物群落」は国の天然記念物に指定されており、生息地の環境は保護されている。

本種の生息が確認される石巻山の自然環境を良好な状態で維持することが重要である。貝類コレクターなどによる無許可での本種生貝の乱獲にも注意が必要である。

## 【特記事項】

Hirano et al. (2014) による分子系統解析の結果では、東京都奥多摩日原の個体は、石巻山の個体とは明らかに異なる種であり、トウキョウコオオベソに近縁であった。愛知県産の本種は、中部や近畿などのコオオベソマイマイに近縁な種であった。これらの結果から考えて、埼玉県や群馬県の本種とされていた個体群は、おそらく、トウキョウコオオベソなどに近縁な別種と考えるのが妥当であろう。湊(2014)は、静岡県の個体群のほか、これら関東地方の種も本種として国レベルでのランク付けをしているので、関東の各地域個体群を別種に分けて扱うことが望まれる。

静岡県については、浜松市北区引佐町などに本種の分布が知られているが(増田・波部, 1989; 加藤, 2019)、Hirano et al. (2014)は同地のカドコオオベソマイマイとする個体が静岡県中~東部などのカドコオオベソマイマイなど同一クレードに位置する結果を示している。また、早瀬・他(2016b)による引佐町産オモイガケナマイマイとされているとされる個体の検討においては、オモイガケナマイマイとは別種に位置付けるのが妥当との検証結果が示されている。したがって、静岡県レッドデータブック 2019 では、静岡県浜松市北区産の類似種を本種としてランク付けしているが(加藤, 2019)、静岡県産の個体群は別種に位置付けて対応する必要があると考えられる。

本種を含め、かつてオナジマイマイ科とされていたグループは、近年では、いずれもナンバンマイマイ科の所属と考えられる様になった(早瀬・他, 2016aの説明(p.38)を参照)。

以前は、周縁角の角張る同様の同属種が、ケマイマイ亜属(*Plectotropis*)に位置付けられていたが、DNA解析の結果いわゆる他人の空似であり、この亜属の単系統性が認められなかった(Hirano et al., 2014)。オオベソマイマイ属(*Aegista*)には、これまで提唱された他の亜属も全て分類群として成立しないことが明らかになったため、近年の分類では本属に亜属表記がされていない。

また、本種は県条例に基づく指定希少野生動物種及び種の保存法における国内希少野生動物種に指定されている。

## 【引用文献】

早瀬善正・木村昭一・河辺訓愛・湊 宏, 2016a. 震災後の宮城県北沿岸で確認された陸産および淡水産貝類, ちりばたん, 46 (1-2): 2-62.

早瀬善正・木村昭一・河辺訓愛・矢橋 真・西 浩孝・川瀬基弘・石井健一郎・岩田明久・仲田彰男・藤原隆則・永尾和彦, 2016b. 三岳山の貝類相, かきつばた, (41): 1-16.

Hirano, T., Kameda, Y., Kimura, K. & Chiba, S., 2014. Substantial incongruence among the morphology, taxonomy, and molecular phylogeny of the land snails *Aegista*, *Landouria*, *Trishoplita*, and *Pseudobuliminus* (Pulmonata: Bradybaenidae) occurring in East Asia. *Molecular Phylogenetics and Evolution*, 70: 171-181.

加藤 徹, 2019. オモイガケナマイマイ, p.442. in: 静岡県くらし・環境部環境局自然保護課(編), まもりたい静岡県の野生生物 2019—静岡県レッドデータブック—動物編>, 539 pp. 静岡県, [http://www.pref.shizuoka.jp/kankyou/ka-070/wild/red\\_data03.html](http://www.pref.shizuoka.jp/kankyou/ka-070/wild/red_data03.html)

黒田徳夫・湊 宏, 1977. 愛知県石巻山石灰岩地帯産オモイガケナマイマイ(新種・新称), *Venus*, 36(2): 57-59.

増田 修・波部忠重, 1989. 静岡県陸産淡水産貝類相, 東海大学自然史博物館研究報告, (3): 1-82 + 3 color pls. + xiv pls.

湊 宏, 2014. オモイガケナマイマイ, p.165. in: 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室(編) レッドデータブック 2014 - 日本の絶滅のおそれのある野生生物 - 6 貝類, 口絵 8 + xliii + 455pp. ぎょうせい, 東京.

## 【関連文献】

東 正雄, 1995. 原色日本陸産貝類図鑑 増補改訂版, xvi + 80 pls. + 343 pp. 保育社, 大阪.

野々部良一・高桑 弘・原田一夫, 1984. 陸産貝類, pp.23-40. in: 佐藤正孝・安藤 尚(編), 愛知の動物, 325pp. 愛知県郷土資料刊行会, 名古屋.

財団法人 自然環境研究センター, 2010. オモイガケナマイマイ, p.955. in: 自然環境保全基礎調査 日本の動物分布図集, 1070 pp. 環境省自然保護局 生物多様性センター, 富士吉田.

(早瀬善正)



豊橋市石巻山, 2006年9月20日, 木村昭一採集